

VI 保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度

内 容		評価
1、研修・研究への意欲・態度		
①	研修会や研究会には自己課題をもって参加し、事前にその内容を確認したり自分なりの考えをまとめている	B
②	自分の保育については自己課題をもって計画と反省を行うとともに、保育のあり方や悩みについて保育者や主任、園長と話し合っている	B
③	「合理的配慮」について日々の保育においてどのような工夫や配慮がなされるべきか職場内で話し合いができる	A
2、遊具・教材に関する専門性の向上		
①	園の遊具や教材についてその特徴や基本的な使い方を知っている	A
②	園の遊具や教材についてどんな使い方をするのか、どのような使い方が危険か予測できる	A
3、園内の環境に関する専門性の向上		
①	園舎の構造（平屋、二階建て）や保育室・遊戯室の位置・大きさがどのような教育的な意味をもつか理解している	B
②	園庭や田畑、砂場、かくれ場所などの位置、広さなどがどのような教育的な意味をもつか理解し、保育に生かしている	B
4、今日的課題に関する専門性の向上		
①	子どもを取り巻くさまざまな状況について、背景・原因・実態はどうであるか興味・関心をもっている	A
②	アレルギー・自立の遅れなど、最近多く見られる問題について興味・関心をもっている	A
③	幼小連携の意義やあり方について興味・関心をもっている	A
④	子どもたちの安心・安全に関する危機管理について興味・関心をもっている	A
5、自らを高めるための学習		
①	保育の専門知識や技能のほかに趣味や読書、ボランティア活動等にも関心がある	A

6、研修と研究でよく出来ていると思ったこと	具体的な例
7、研修と研究でこれからの課題と思ったこと	具体的な例

- A よくできている
- B まあまあできている
- C あまりできていない
- D まったくできていない